

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

農業教育の持つポテンシャルを最大限に活かし、生徒一人ひとりの夢をカタチにできる、“感動とトキメキの学園”をめざす。

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力などを身に付けさせ、主体的に学習に取り組む態度を育む。
- 2 生命と人権、自然と環境を大切にすることを育むとともに、自らを律することができる規律・規範を身に付けさせ、心身の健やかな成長を支援する。
- 3 豊かな勤労観や職業観を身に付けさせ、将来の夢や目標を形作り、進路を自ら選択・決定する力を育むとともに、農業の担い手や関連産業で活躍できる人材を育成する。
- 4 様々な機関等と連携した広がりのある教育の構築により、学校の有する施設・設備や生徒の活動成果等を府民に還元するなど、農業教育のセンター的機能を果たす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路保障

(1) 個に応じた『わかる!』『できる!』が実感できる授業を実践する。

☆英語において習熟度別授業を効果的に活用し、わかる授業を実践する。

※学校教育自己診断(生徒)で「少人数展開授業は授業内容の理解に効果的」(R02:83%、R03:88.7% R04:84.7)を前年度比で増加させる。

令和7年度には、85%以上を維持する。

(2) 自主的に学ぶ態度や習慣を身に付けさせ、生徒一人一人が「学ぼうとする意欲」を醸成し、「学ぶ力」の定着につなげる。

☆予習・復習など、授業以外の学習を充実させる。また、資格取得を推進し、学ぶ意欲につなげる。

※授業アンケートで「必要な予習や復習ができています」(R02:2.94、R03:3.02 R04:2.97)の平均値3.0以上をめざすとともに、令和7年度にも維持する。

(3) 生徒の基礎・基本の学力を定着させる。

☆「高校生のための学びの基礎診断」を導入し、その結果を効果的に活用することで基礎学力の定着・学習意欲の喚起を図る。

(4) 日本の「生命総合産業を支える人材育成」のためのキャリアガイダンス機能の充実を図り、個々の進路実現を支援する。

○学校紹介就職100%、生命総合産業への就職者数、国公立大学を含めた生命総合関連学部、専門学校への進学者数を1割以上増加させる。

※農業関連企業への就職者数(R02:24名、R03:18名、R04:18名)

農業関連学部への進学者数(R02:23名、R03:34名、R04:31名)

2 農業教育を基盤としたチャレンジ精神豊かな「地域創生ジェネラリスト」の育成

(1) SDGsを意識し、身の回りの課題解決のため農業クラブのプロジェクト活動等を通じ、社会に参画し貢献する意識を醸成する。

○地域課題解決をテーマとした農業クラブ活動を実施し、生徒の意欲を高める。

※学校農業クラブの各大会での上位入賞をめざす。

○アグリマイスター顕彰制度を活用するとともに、進学・就職等の進路実現に生かせる資格取得を推進する。

※アグリマイスター認定者の前年度比増をめざす。

○GAP(農業生産工程管理)教育を推進し、生産物の高付加価値化により「農芸高校ブランド」を創出する。

☆地域・企業・大学・農政等のリソースを活用し、農芸高校ブランドを拡充する。

※令和7年度に新たな「農芸高校ブランド」を創出するとともに、農業の6次産業化を推進する。

(2) チャレンジ精神豊かな「地域創生ジェネラリスト」を育成する。

☆新たな評価方法(3観点別学習状況評価)も効果的に活用し、フィードバックを通して、育成を図る。

3 規律・規範の確立と豊かな心の育成

(1) 自らを律することのできる規律や規範意識、また自らの行動をコントロールできる力を身に付けさせる。

○教職員が一丸となり欠席、遅刻、服装、頭髪、登下校時のマナーなどの指導を徹底する。

(2) 職員の人権意識、カウンセリングスキルを向上させ、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導を徹底する。

☆いじめ、教育相談や支援教育に係る職員研修を行い、教育相談及び支援教育について組織体制の運用を進める。

○生徒実態調査結果を分析し、生徒指導全般に活用するとともに一人一人の生徒に寄り添い、安心・安全な居場所として、学校生活への定着を図る。

4 能動的な学校運営体制の確立と教職員の資質向上

(1) 「授業アンケート(生徒による評価)」などを活用し、振り返ることで教員の授業研究・授業力向上を図る。

○「授業アンケート」結果や教員相互の授業見学により、各教科で組織的な授業研究・改善を図る。

(2) 臨時休業への対応、自らの働き方の見直しによる長時間労働の防止に向けて、効率的、組織的に取り組む。

☆毎週水曜日を定時退庁日とし、長時間勤務を減らすべく各自が働き方を見直す。

○学習支援クラウドサービス、校内ネットワーク、校務処理システムを効率的かつ有効に活用する。

(3) 学校を取り巻く様々な課題を把握し、校内研修で教員の資質向上を図り、RPDCAを定着させ、課題に対応できる組織を構築する。

○本校が直面する課題の解決に向け、教職員向け研修、学外施設見学等を実施し、資質向上を図る。

5 地域の農業高校としての広がりのある教育の展開と情報発信

(1) オール大阪の農業教育ネットワーク(行政(環境農林関連)、大学、企業、農家、農事法人、教委等)の活用を進める。

○学校資産を活用し、地域と交流し、生産物販売、見学受入、イベント参加協力等の学校内外での学びにより、生徒の自己有用感を育成する。

※対外的な交流の機会を可能な限り模索する。

(2) 府民、地域、中学校等へ農芸高校の魅力を積極的に発信する。

○中学校訪問や体験入学会、学校説明会、学校HPの随時更新、報道提供等により農芸高校の魅力を発信する。

※将来、本校を志望する小学生、中学生等へ本校の魅力を提供する機会を設ける。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>学校教育自己診断結果（％は肯定率）</p> <p>【生徒】</p> <p><評価の高い項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は1人1台端末を効果的に活用している。93.6% ・命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。91.9% ・先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。全学年 89.8% ・学年別の全項目の肯定率 1年 88.7% 2年 82.1% 3年 85.1% ・学校生活全般の満足度 全学年 88.0% <p><評価の低い項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。1年 77.9% ・農芸高校の生徒であることに誇りを持っている。2年 77.7%（1年 90.8%）2年生の肯定率が低い。 ・授業や農業クラブ、部活動などで、他の学校園等との交流や地域の人々とかかわる機会がある。78.0% ・農芸高校では、生徒会活動が盛んである。78.9% ・教室・特別教室・運動場・農場などは、授業や生活がしやすいよう整備されている。80.0% <p>【生徒分析】</p> <p>2年生の全体の肯定率が他学年の評価と比べ低い傾向にあるが、生徒は学校生活においての満足度は88%と高く、LGHの指定を受けていることもあり、1人1台端末の活用についても非常に高い結果となっている。授業アンケート結果も昨年と比べ大きく評価が上昇していることから、ICTの活用で授業改善が進んだと考えられる。教育相談についての評価が比較的低く、次年度に向けて教育相談体制の整備が必要である。対外的な活動を多く実施しているが、全体の取組みとなっていないため、学校全体で取り組む農芸祭などで地域交流の機会を設ける必要がある。また、生徒会（クラブ活動）の充実が必要であるが、放課後の実習があるため、生徒会クラブの勧誘などを積極的に行う必要がある。</p> <p>【保護者】</p> <p><評価の高い項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習の評価は、適切・公平に行われている。95.3% ・学校行事は、みんなが積極的に参加できるよう工夫されている。96.1% ・自分の生き方を考え、豊かな心を持った生徒を育てようとしている。93.6% ・けがや体調が悪くなった時など学校は適切に処置をしてくれる。92.7% ・子どもに生命を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている。92.7% <p><低い項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農芸高校は、放課後等のクラブ活動が充実している。61.8% ・学校は家庭への連絡や意志疎通を積極的に、きめ細かく行なっている。77.7% ・子どもは、授業がわかりやすく、楽しいと言っている。76.8% ・学校の施設・設備は学習環境面で満足できる。79.8% <p>【分析】</p> <p>保護者全般の満足度は高く、学習評価、学校生活、教育方針に理解を示していると感じられる。働き方改革のため電話の応答について時間外は対応しないようにした事により、意思疎通の部分で低い評価となっているが、保護者サイトの活用促進と理解を深めて頂く必要がある。</p> <p>【教員】</p> <p><高い項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農芸高校の教員は、生徒の学習意欲や学力が向上するよう、教材の精選・工夫を行っている。100% ・コンピュータ等の情報機器が、各教科の授業などで活用されている。97.9% ・農芸高校の教員は、参加体験型の学習やグループ学習、思考力重視の問題解決型学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を図っている。97.2% ・農芸高校は、教育活動全般について、生徒や保護者の願いによくこたえている。95.8% ・農芸高校の教員は、教員に求められる府民や社会からの要請に応え、その職責をよく果たしている。95.8% ・農芸高校の教員は、生徒の悩みや相談に親身になって応じている。95.8% <p><低い項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。58.3% ・学校の施設・設備は学習環境面で満足できる。58.3% ・各科目や各分掌、各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。62.5% ・教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。64.6% ・各教科の備品や教材教具は十分に活用されている。66.8% <p>【分析】</p> <p>教員は、授業改善に熱心に取り組んでおり、授業アンケートの結果からもICTの活用・グループ学習を取り入れた授業などが多く行われていることから評価が高いと思われる。教育相談についてそれぞれで相談に乗っているが、生徒の評価は比較的低い結果からも第3者的なカウンセリング体制の構築も必要であると考えられる。研修成果の報告の実施、施設設備面の改善の必要がある。また、経験の少な</p>	<p>【第1回 令和4年7月15日（金）】</p> <p>○学校経営計画と学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方について堺市でも筆頭に挙げられる課題である ・役所でも取り組みを進めており、ペーパーレス化・データ化を進めると良い ・働きやすい環境、生徒も楽しく学べる環境はイコールである必要がある。 ・職員が疲弊しては元も子もない。 ・GIGA 端末の授業改善が進むことで子どもたちの居場所が生まれる。また、自己肯定感が高まる副産物もある、授業が面白いというきっかけになるのではないか、それが中退率の減少に繋がる。 ・心身や発達の偏りがある場合でも多面的な教育活動、支援教育がある。主体性をいかに体験と知的かつつながりを持って指導することは必要不可欠 <p>○教科書採択について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員全員より、異議なし <p>○スクールポリシー等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決という言葉、今後求められている課題に対して、いかにして能力を高めていくか、この指導を徹底いただきたい。 ・他者との共同することについては非常に大切、社会に貢献できる、ここも大切である。人材育成において今後も大切に頂きたい。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美原区とのつながりを大切にしていきたい。商店街での取り組みも、ぜひお願いしたい。 ・学校はやるべきことが多すぎて、どこで線を引くのか、電話の対応も含めて悩ましいと思われる。 <p>【第2回 令和5年12月8日（金）】</p> <p>○令和5年度学校経営計画について 進捗状況の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な予習や復習ができていくという項目が上がっている理由としてICTの活用をあげていたが、先生方の取り組みの努力が大きいのと思う。大変嬉しく思う。 ・いじめなどについて、教員が対策をとることも大切だが、生徒同士で解決できる生徒を育てていくべきではないだろうか。 ・保護者向けサイトやメールで、配布資料を送り、ペーパーレス化を図ることは保護者としてもありがたい。保護者にまで届かない資料もあるため良いと思う。 ・農芸高校のSNSをフォローしているが、生徒のいきいきとした顔が見れて楽しみにしている。 ・農業技術検定を持っている子たちが本校に入学してきて、普通科出身の生徒に教えてくれている。そのおかげで生徒全体の技術力が向上してきている。 ・飼料の高騰化についても、プロジェクト発表にいかせようと思うので、生徒と一緒に考えていってほしい。農業経営の点においてもより深い学びになると思う。 ・ICTの活用は小学校4年生では、プレゼンテーションソフト等も使って発表を行っている。高校に入ってもあつて当然という気持ちで来るのではないかと。現在の生徒はICTの活用が当然。研究授業ではうまく活用されていた。 ・農芸祭の招待を、友人も含めていただけないか、検討してほしい。 ・農芸祭の卒業生を招待したが、コロナ禍で卒業した生徒がたくさんいた。 ・思春期の方の規範意識の低下や目的意識の低下を実感する。入学後にその大切さを教えてくれている学校は本当に良いと感じる。遅刻や忘れ物など、その原因がどこかにあるため、特性を考え、自己理解し、対応を考えていくことが必要である。医療現場もパンク状態である。それだけ問題を抱える方が多いと実感している。鑑別所横の相談所もよければ活用してください。 ・農芸高校の生徒に寄り添っており、素晴らしいプロジェクトを行っていると感じた。今後も、発表をする機会を多く設けていってほしい。高校でここまでのことができていくことは本当に素晴らしいので、ぜひ継続してほしい。 <p>【第3回 令和6年2月9日（金）】</p> <p>○授業アンケート結果と分析 報告</p> <p>○学校教育自己診断結果について 報告</p> <p>○令和5年度学校評価・令和6年度学校経営計画について 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断結果からも、地域資源を有効に活用し、つながりを大事にして欲しい。 ・次年度の学校経営計画として防災の取り組みがあるが、美原区の防災センターを活用してはどうか。 ・働き方改革や修学旅行の見直しの意見もあるが、修学旅行は維持して欲しい。 ・SNSなどをよく見ている。学校の活動を見てもらえるようにして欲しい。 ・農芸にしかできないことが体験できている。私は学校の事を知れてよかったが、保護者ももっと学校の見る機会を設けて欲しい。 ・生徒の評価も非常に高い。将来の農業の担い手になって欲しいと思う。 ・役所でも取り組みを進めているが、ペーパーレス化・データ化を進めると良い ・GIGA 端末の授業改善が進むことで子どもたちの居場所が生まれ、授業に参加できている。自己肯定感が高まる副産物もある。授業が面白いというきっかけになるのではないか。ひいては中退率の改善へ遅刻率の改善につながるのかもしれない。 ・中退率については進路の変更が多いのか、学力的なものなのか。改善できるものなのか。状況によって指導が必要ではないか。 ・今後も地域のつながりを大切にしたい。美原商店街での取り組みも、ぜひお願いしたい。

い教員の増加により分掌業務など組織が有機的に機能できるように体制の見直しや教員1人ひとりのスキルアップなどが必要不可欠であると考えられる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と進路保障	<p>(1) 個に応じた『わかる!』『できる!』が実感できる授業を実践する。</p> <p>(2) 自主的に学ぶ態度や習慣を身に付けさせ、生徒一人ひとりの「学ぶ力」を育成する。</p> <p>(3) 生徒の基礎・基本の学力を定着させる。</p> <p>(4) 日本の「生命総合産業を支える人材育成」のためのキャリアガイダンス機能の充実を図り、個々の進路実現を支援する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 英語の習熟度別授業や大学進学希望者向けの科目について、常に検証し指導方法等の改善を図る。</p> <p>イ 学年を中心に考查前の放課後補習を定着させる</p> <p>(2)</p> <p>ア 各教科で宿題や課題を課すなど、授業以外の学習を習慣化させる。</p> <p>イ 普通教科に関連する資格・検定（漢検、数検、英検等）の受検を勧める。</p> <p>(3)</p> <p>ア 「高校生のための学びの基礎診断」を導入し、基礎学力の定着・学習意欲の喚起を図る。</p> <p>(4)</p> <p>ア キャリア形成の視点から教育活動全体を捉えて構築したキャリア教育計画を継続する。</p> <p>イ 専門学科、進路指導部、学年、教科等が連携し、生徒の進路を保障する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・受講する生徒の授業満足度 85%以上を維持。[87.7%]</p> <p>・自己診断（生徒）「授業（座学）は分かりやすく楽しい」の肯定率を前年度程度に維持する。[85.3%]</p> <p>イ 成績不振者等への考查前等での放課後補習を各学期で実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・授業アンケート「生徒取組1（予習・復習ができています）」の平均値 3.0以上をめざす。[2.97]</p> <p>・長期休業中等における進学希望者向け講習会を実施する。</p> <p>イ 受験者数を維持する。 [合格者：数検 1名 英検 27名 漢検 4名]</p> <p>(3)</p> <p>ア 基礎学力の伸長につなげるため、教育産業の基礎学力調査を有効に活用する。</p> <p>・自己診断（生徒）「学校は進路についての情報を良く知らせてくれる。」の肯定感を維持 [肯定感 89%]</p> <p>(4)</p> <p>ア 昨年度までに構築された学校全体のキャリア教育計画を継続する。</p> <p>イ 卒業時の進路決定において前年度の決定率を維持。 [就職内定率 100%、農業・食品関連就職者数 18名、国公立大学の農学部等 31名]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・受講する生徒の授業満足度 85%以上を維持。(87.1%) (○)</p> <p>・自己診断（生徒）「授業（座学）は分かりやすく楽しい」の肯定率を前年度程度に維持する。(83.5%) (△)</p> <p>・放課後補習（質問会）を考查前に実施。成績不振者への考查前補講を実施 (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・授業アンケート「生徒取組1（予習・復習ができています）」の平均値 3.0以上をめざす。(3.24) (◎)</p> <p>・7月から9月にかけて国公立難関私立大学対策講座を7回実施 (◎)</p> <p>イ 習熟度別授業により生徒の学習状況を把握し、必要なサポートを適宜実施した。(合格者：数検 0名 英検 13名 漢検 8名) (△)</p> <p>(3)</p> <p>ア基礎学力調査を活用（生徒の変容）</p> <p>・自我確立度 48.8、社会性確立度 51.5 (50が全国平均値)と 61名が向上 (○)</p> <p>・自己診断（生徒）「学校は進路についての情報を良く知らせてくれる。」の肯定感を維持 (肯定率 93%) (○)</p> <p>(4)</p> <p>ア.年間進路行事計画に記されたキャリア教育計画をほぼ順調に実施 (○)</p> <p>イ卒業時の進路決定において前年度の決定率を維持。 全学年生徒に外部講師による分野別進路説明会（1年：職種 2年：学部・学科 3年：学校）や進路講演会を行い、進路指導部による進路説明会（就職・進学・奨学金）を行った。 (就職内定率 100%、農業・食品関連就職者数 21名、国公立を含めた大学の農業・食品関連の学部等への進学者数 47名) (◎)</p>
2 農業教育を基盤とした「地域創生ジェネラリスト」の	<p>(1) SDGsを意識し、身の回りの課題解決のため農業クラブのプロジェクト活動等を通じ、社会参画意識を醸成する</p>	<p>(1)</p> <p>ア 地域課題解決をテーマとした農業クラブ活動を実施し、各種コンテスト等に積極的に参加し、生徒の意欲を高める。 *コロナ禍に影響されない参加可能なものに重点をおく。</p> <p>イ すべての資格の取得状況を把握することにより、アグリマイスターの認定につなげる。</p> <p>ウ 地域・企業・大学・農政等のリソースを活用</p>	<p>(1)</p> <p>ア・近畿ブロック代表としてプロジェクト発表で全国大会出場をめざす。 [近畿大会出場プロジェクト発表Ⅰ類・Ⅲ類部門優秀賞、意見発表Ⅱ類部門優秀賞]</p> <p>・自己診断（生徒）「農業クラブへの意欲」肯定率 90%程度を維持。 [90.0%]</p> <p>イ アグリマイスター認定者 10名以上を維持する。[12名]</p> <p>ウ・農芸高校ブランドをめざし生産物の</p>	<p>(1)</p> <p>ア.農業クラブ全国大会（測量競技会・家畜審査競技会府の代表として出場）。 （近畿大会ではプロジェクト発表Ⅰ・Ⅲ類優秀、意見発表Ⅰ類奨励賞、農業情報処理競技会では1年生が優秀賞） (○)</p> <p>・全国高校生農業アクション大賞支援対象に資源動物科総合環境専攻が選出、毎日農業記録賞では3名入選</p> <p>・自己診断（生徒）「農業クラブへの意欲」肯定率 90%程度を維持。(81.4%) (△)</p> <p>イ.アグリマイスター顕彰制度認定者 (11名) (○)</p> <p>・FFJ検定「特級位3名合格」</p> <p>ウ・本校生徒が監修した食品メーカーの菓子において関西地域で再販</p>

府立農芸高等学校

育成	(2) チャレンジ精神豊かな「地域創生ジェネラリスト」を育成する。	し、農芸高校ブランドを拡充する。 *外部人材やオンライン等の活用も図る。 (2) ア 育成のための学習プログラムを実施し、評価を行う。	高付加価値化を図る。 (2) ア・ポートフォリオやルーブリックを活用し、生徒の学びを可視化する。 ・評価方法を検証する。	大阪産認定の農芸鴨、卵、レトルト食品の企業連携による商品化、販売促進(◎) (2) ア・SPH 事業を昇華した課題研究・総合実習のルーブリックやチェックリストを運用し評価を実施。 ・3観点の評価方法は教育課程協議会で発表・協議、担当者間で共有(○)
3 規律・規範の確立と豊かな心の育成	(1) 自らを律することのできる規律や規範意識、また自らの行動をコントロールできる力を身に付けさせる。 (2) 職員の人権意識、カウンセリングスキルを向上させ、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導を徹底する。	(1) ア 遅刻者に対する指導を徹底し、遅刻数を減少させる。 (2) ア 教育相談や支援教育に係る校内研修を充実し、一層理解を深めて指導力を高める。 イ ①人権意識を向上させ、体罰・セクハラなど、あらゆる差別を許さない教育の場とする。 ②いじめ等調査、生徒実態調査の実施結果を分析し、生徒指導全般に活用する。 ウ 一人ひとりの生徒に寄り添い、安心・安全な居場所として、学校生活への定着を図る。	(1) ア 遅刻総数前年度比 10%減をめざす。[2,006 回] (2) ア 教育相談や支援教育に係る校内研修を3回以上実施[3回] イ ①年間計画に基づく人権教育の実施及び人権教育講演会の実施。 ②いじめ等の把握と未然防止のため、府教育庁によるアンケート等を実施・活用し、実態把握に努める。 ウ・自己診断(生徒)「教育相談(カウンセリング)の体制が確立されている」の肯定率 80%以上を維持する。[83.6%] ・中退や不登校を未然防止し、前年度より減少させる。[0.7%]	【生活指導】 遅刻指導に関しては、指導場所やルールを2学期より変更し、より多くの教員に遅刻生徒の実態把握や業務の協力をお願いした。しかしながら、12月末現在の遅刻回数(全学年)は昨年を上回る結果となった。R4 1514回 R5 2348回(△) (2) ア教育相談や支援教育に係る校内研修を3回以上実施(4回)エビペン、AED、LGBTQ+、色覚などの研修を実施した(◎) イ①人権教育講演会の拉致問題に関する動画の視聴や、同和問題等についての研修を実施した。(○) ②いじめ等の把握と未然防止のため、アンケート等を学期毎に実施・活用し、実態把握に努めた。(○) ウ・自己診断(生徒)「教育相談(カウンセリング)の体制が確立されている」の肯定率 80%以上を維持した。(82.0%) (○) ・中退や不登校を未然防止し、前年度より減少させる。(1.03%) (△)
4 能動的な学校運営体制の確立と教職員の資質向上	(1) 「授業アンケート」などを活用し、振り返ることによって授業研究・授業力向上を図る。 (2) 臨時休業への対応、自らの働き方の見直しによる長時間労働の防止に向けて、効率的、組織的に取り組む。 (3) 学校を取り巻く様々な課題を把握し、校内研修で教員の資質向上を図り、RPDCAを定着させ、課題に対応できる組織を構築す	(1) ア 各教科で組織的な授業研究を進める。その際、「授業アンケート」結果、基礎学力の調査結果(教育産業)を活用する。(ICTの活用、ALの導入なども含む) イ 授業研究を推進するに際し、公開授業・相互の授業見学等も行う。 (2) ア 学習支援クラウドサービス、校内ネットワークや校務処理システムを効率的かつ有効に活用する。 イ 毎週水曜日を定時退庁日とし、長時間勤務を減らすべく各教員が意識して、働き方を見直す。 ウ 働き方改革を推進し、時間外労働を減らす取り組みを行う。 (3) ア 本校が直面する課題の解決に向け、教職員向け研修、学外施設見学等を実施し、資質向上を図る。 イ リーディング GIGA ハイスクールの研究指定校として、活用に向けた取り組みと情報発信を行う	(1) ア・教科及び個人で前期より後期の評価を上げる。[-0.02] ・前年度程度の全体の平均値をめざす。[3.30] ・自己診断(生徒)「教え方に工夫がある」の肯定率 85%以上維持。[89.4%] イ 初任者は年2回以上の研究授業を実施。 (2) ア 資料データの共有化等による会議の効率化、省エネ化で時間短縮を図る。フォーム作成ツールを使った出欠管理の運営について効率化と指導の検証を行い改善する。 イ 長時間勤務者へのヒアリングとコーチングを管理職及び産業医が行う。定時退庁日、ノークラブデーの徹底と合同部活動の推進を図る。 ウ 農業科教員の働き方について時間と場所の枠を見直し、労働時間の昨年度比 10%減をめざす。[19%増] (3) ア・課題に応じ、教職員向け研修を年間3回程度実施。 ・学外施設等と交流し、課題解決につなげる。 イ 電子黒板など ICT の活用を推進その成果を情報発信する。 ウ 年度末に各組織の課題を明確化し、	(1) ア・教科及び個人で前期より後期の評価を上げる。(0.05 上昇) (○) ・前年度程度の全体の平均値をめざす。(3.41) (◎) ・自己診断(生徒)「教え方に工夫がある」の肯定率 85%以上維持。(85.2%) (○) イ 初任者は年2回の研究授業を実施。(○) (2) ア: 職員会議のペーパーレスを継続。保護者向けサイトを開設し、Google Forms によって保護者からの出欠連絡の簡便化、時間外の問い合わせに対応した(◎)。 イ 長時間勤務者へのヒアリングとコーチングを管理職及び産業医が行った。定時退庁日、ノークラブデーの徹底と合同部活動の推進を図った。(○) ウ 農業科教員の働き方について時間と場所の枠を見直し、労働時間の昨年度比 10%減をめざす。(集計中) 4月以降 (3) ア・課題に応じ、教職員向け研修を年間3回実施。人権研修、ICT 2回 (○) ・他府県の農業高校を視察し、課題解決につなげる (○) イ 1人1台端末を活用した研究授業を5教科(国語・社会・数学・理科・農

府立農芸高等学校

	る。	ウ 各分掌・委員会・学年・学科ごとの取組計画を踏まえ、課題の解決を進める。	解決に向けた次年度の取組計画を作成するとともに、その課題を次年度の取組計画を学校運営協議会で示し、外部評価を行う。	業)で実施した。農芸高校での実践事例集を作成、職員研修での活用方法の周知を行った(○)。 ウ課題を次年度の取組計画を学校運営協議会で示し、外部評価を行った。(○)
5 地域の農業高校としての広がりのある教育の展開と情報発信	(1)オール大阪の農業教育ネットワーク(行政(環境農林関連)、大学、企業、農家、農事法人、教委等)の活用を進める。 (2)府民、地域、中学校等へ農芸高校の魅力を積極的に発信する。	(1) ア 学校資産を活用し、農業教育のセンター校として地域と交流し、食育推進、生産物販売、講習会開催、見学受入、緑化協力、イベント参加協力等を通して、生徒の自己有用感を育む。 (2) ア 中学校訪問、学校説明会や体験入学会を充実するとともに、HP更新、報道提供等、積極的に広報活動を行う。 イ 11月開催の農芸祭について、広報の充実と多数の来場者への安全性の向上、利便性等の改善を図る。	(1) ア・小・中学校等と交流し、複数回の見学受入れや講習会を実施する。 ・地域活性化のため地域のイベントに参加する。 ・正門周辺エリア(百年の丘、販売所)を有効活用し、府民に開放し、交流する。 ・自己診断(生徒)「地域交流の機会」の肯定率80%以上。[77.2%] (2) ア・生徒が農芸高校の魅力と特性を伝えるべく中学校訪問を行う。 ・中学校の教員向け説明会等を実施 ・学校説明会等を昨年度並みに実施。 ・生徒の輝いている一瞬を広報すべく学校HP等を活用し、行事等での様子を紹介する。 ・マスコミ(新聞、テレビ等)からの取材依頼(複数回)をめざし、取組みを発信する。 イ 保護者の学校行事に関する満足度、農芸祭の来場者の満足度の向上をめざす。 [保護者の満足度93.3%]	(1) ア・幼、小、中、支援等学校や園の食育体験活動や出前授業の実施、全国の農業高校の視察受入れ、(3校)、国際交流(禾実験教育学校)受入れ(◎) ・大型商業施設での農産物・商品販売、百貨店年3回、企業連携により大型商業施設内の店で定期的な農産物販売、大阪府・堺市(土木)と協働した公園でのイベント、空港・神社への門松設営などイベント協力、地元農家の規格外果物や農産物の加工、飼料化のゼロエミッションと地域循環型農業による商品開発、高齢者施設等での高校生レストラン、地域商店街の活用、大阪産の畜産物を活用した高校生レストラン、レトルト食品の開発(◎) ・正門周辺エリアを活用した農産物販売やふれあい動物園活動などの生徒が企画運営する農業イベントAgrifes年2回開催し500名来場(○) ・自己診断(生徒)「地域交流の機会」の肯定率80%以上。(78.0%)(△) (2) ア 本年度は100校について中学校訪問を実施、在校生による母校訪問も実施(○) ・教員向け、中学生向け説明会も昨年同様に体験2回、説明会5回実施(○) ・SNSで積極的に情報発信、HPコンテンツでは6年連続受賞(○) (今年度アクセス数50,098(4/1~1/9)) ・メディア等での情報発信 (TV2回放送、新聞2回、雑誌1冊掲載)(◎) ・本年度の農芸祭は同居家族5名まで、中学生(保護者・教員)、同窓生本人のみとし計2,041名が来場(内、中学生145名、同窓生353名) 保護者の学校行事に関する満足度 保護者の満足度(96.1%)(◎)